

## 本年度の研究

### (1) 研究主題

自分の考えや思いをいきいきと表現できる中之又っ子の育成  
～国語科における「書くこと」の指導を中心とした取組を通して～

### (2) 主題設定の理由

今日、科学技術の進歩や価値観の多様化、情報化、国際化といった社会環境の著しい変化の中で、主体的・創造的に生きていくためには、一人一人の児童に、豊かな人間性や社会性を身に付けさせるとともに、基礎的な内容の確実な定着を図り、自ら学び自ら考える力である「生きる力」を育てていくことが重要である。その「生きる力」を支える基盤の一つに、自分の考えや思いをいきいきと表現できる能力があげられる。現行の学習指導要領の中では、国語科の指導を通して「自分の考えをもち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力」などを重視することが謳われており、「基礎的な内容を繰り返し学習し確実に言語能力を育成すること」とされている。また、平成21年4月から始まる新学習指導要領においても各教科等で言語の力を育むことが重視され、その中心としての国語科の役割が重要視されてきている。

本県では「宮崎の教育創造プラン」を策定し、「知・徳・体」のバランスのとれた児童生徒の育成を目指している。本校においても、平成17年度より、「明日の宮崎を担う子どもたちを育む戦略プロジェクト」を設定し、学力向上対策として基礎学力の向上に取り組んできた。

本校では、学校の教育目標に「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成」を掲げ、その具現化に取り組んでいる。平成19年度は国語科において「話すこと」「聞くこと」の指導の工夫を研究の中心とし、一人一人の表現力を高める工夫や評価の工夫、全教育活動を通して児童が表現する場の設定など、少人数ならではの個に応じた指導について研究を進めてきた。その結果、児童が自分の考えを自信をもって言う姿が見られるようになったこと、表現力に広がりが見られるようになったこと、児童が言葉に関心をもつようになったこと、児童の自信につながったこと、などの成果が得られ、今後の研究にも大いに生かせるものとなった。

児童期は、自己を表現することに興味・関心が高く、音声言語、文字言語ともに、様々な表現の工夫を自然に受け入れられる時期にあるといえる。このような児童期に「書くこと」の表現力の向上を図ることは、自分の考えや思いを表現する能力を育てるのみならず、自己を表現することで自分に自信をもたせる上でも大変意義深いと考える。

本校の全校児童は3年生2名、4年生1名、6年生3名の計6名である。少人数で学校行事を運営していくため、一人一人が活躍する場や学習中の発表の場などが多くある。年間に数回計画されている石河内小学校での集合学習や町内3校による木城小学校での交流学习では、集団の中で学習し、自分の考えや思いを表現できるよい機会となっている。集合学習や交流学习で他校の児童と学習を進める中で、児童は自分の考えを言える点については随分と成長した。しかし、その内容や、自分の思いや考えなどを文字言語としていきいきと表現するまでには、まだ研究が必要な段階である。

また、本校は山村留学制度を実施しており、1年しか在籍しない児童もいるが、文字で自分の考えや思いを表現する「書くこと」に関する能力は、様々な学習の基礎的な部分を担い、個々の学習の基盤になるとも言える。

そこで本年度は、昨年度の「話すこと」「聞くこと」の指導を中心とした表現力育成の取組を受け継ぎ、国語科を中心とした「書くこと」の表現力の育成に取り組むこととした。「書くこと」の表現力を高める指導方法の工夫やその評価の工夫を行ったり、全教育活動を通じた工夫を行ったりすれば、児童の「書くこと」の表現力は向上し、自分の考えや思いをいきいきと表現できるようになると考えられる。さらに、その表現が認められる場を数多く設定することで、書く表現力や書く楽しさを感じることができ、自ら学び自ら考える力である「生きる力」を育むことにつながり、本校の教育目標の具現化を図ることができると考え、本主

題を設定した。

(3) 研究の目標

国語科において「書くこと」の表現力の育成を図る指導の工夫を行うことや、全教育活動において発表の場や機会を工夫していくことを通して、自分の思いや考えをいきいきと表現できる児童を育成する。

(4) 研究仮説

国語科の学習において、「書くこと」の表現力を高める指導方法の工夫やその評価の工夫、全教育活動を通じた工夫を行えば、児童の「書くこと」の表現力は向上し、自分の考えや思いをいきいきと表現できるようになるであろう。

(5) 研究内容

国語科における「書くこと」の表現力を高める指導の工夫

「書くこと」の表現力を高める指導の工夫

- ・ 「書くこと」のとらえ方（理論研）
- ・ 行事や身近な地域の素材を生かした指導

授業の実際

- ・ 3年
- ・ 6年

自信と意欲につながる評価の在り方

- ・ 教師による評価の在り方
- ・ 自己評価、相互評価の在り方

全教育活動を通して「書くこと」の表現力を高める工夫

発表の場の工夫

- ・ 学習発表会へ向けての取組
- ・ 積極的な作品募集への参加
- ・ 発表集会での取組
- ・ 校内掲示の工夫

豊かな語彙力の育成につながる読書活動の工夫

地域との連携を生かした取組

(6) 研究の全体構想図

